

令和 7 (2025) 年度 IAMASの概要説明





情報科学芸術大学院大学

Institute of Advanced Media Arts and Sciences

— 目次 —

組織の概要	3
活動の概要	10
運営の概要	31

IAMAS の目的

情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] は、科学的知性と芸術的感性の融合を目指した学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、未来社会の新しいあり方を創造的に開拓する「高度な表現者」を養成するとともに、学術文化の向上及び地域の振興に寄与することを目的に、岐阜県が2001年に開学した大学院大学です。



浅井睦 (Metalium llc.) (博士前期課程2年)
『Superposition machine』
「クセがあるアワード：混」佐藤正和審査員賞

- 沿革

- 1996 岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー (IAMAS) を設立
- 2001 情報科学芸術大学院大学を開設
メディア表現研究科 (修士課程) を設置
大学附属研究機関メディア文化センター (CMC) を設置
大学附属図書館を設置
- 2005 リンツ美術工芸大学と交換留学生協定
- 2010 メディア文化センター (CMC) を産業文化研究センター (RCIC) に改名
- 2012 岐阜県行政改革アクションプランにより国際情報科学芸術アカデミーを廃止
- 2014 ソフトピアジャパン地区へ、全学移転
- 2021 メディア表現研究科 (博士後期課程) を新設

教 育 目 標

情報科学芸術大学院大学は建学の理念に基づき、新しい文化を創造する高度な表現力を授け、現代社会の諸問題に応答できる人の育成を教育目標として掲げています。

- 学位授与方針（ディプロマポリシー）

情報科学芸術大学院大学は建学の理念に基づき、科学技術と哲学・思想的視野をともなう新しい文化を創造する高度な表現者の育成を目標とし、その目標のために編成されたカリキュラムにおいて、所定の単位を取得することに加え、論文審査あるいは作品・論文審査、及び最終試験を合格した学生に修了を認定し、学位を授与します。

その際、以下の点が問われます。

- 専門性を有した自立したアーティスト・デザイナー・エンジニア・研究者・教育者として、必要な能力を身につけたか。
- 高い倫理性と強い責任感を意識し、未来の人間の生き方、幸福を追求しながら、研究が現代社会の諸問題に対する応答として成果を得ることができたか。
- 研究領域によらず様々な分野を専門とする人々とも互いに積極的に関わりあい、その交流の中から生み出される「新しい知」のあり方を身につけたか。

- 教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

情報科学芸術大学院大学は建学の理念に基づき、新しい文化を創造する高度な表現力修得を目指し、体系的に専門性を獲得するための実践的かつ領域横断的な科目を配置し、講義、演習、実習等を適切に組合せた高度な授業を開講するとともに優れた研究指導を行います。

- 高度な表現者としての素養を身に付けるとともに、社会の多様な要請に対応した幅広い知識と実践力を修得するため、プロジェクト科目および特別研究科目を設置する。
- 自らを批評し研究成果の社会的意義を問うための総合科目を設置する。
- 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶために専門科目および制作演習科目を設置する。
- 問題発見力、課題探求力、問題解決力、表現能力、コミュニケーション能力など、研究において必須となる汎用的な能力を育成するため導入科目を設置する。

- 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

多様な背景を持った学生により高度な学習機会を与えるために、積極的な情報発信を行い、面接を主体とした多様な入学者選抜を実施しています。その際、以下のような学生の入学を想定しています。

- 自らの専門領域を活かし、他分野と横断的な探求をする。
- 情報社会の新しいあり方を創造的に開拓する。
- 人や社会との新しい関係性を考え、次世代の産業を創出する。
- 様々な形態の芸術表現から新しい文化を創造する。
- 情報やコミュニケーションに新たな形を与え、地域社会に提案する心豊かな社会の実現をめざす。

全ての大学等において、以下の三つの方針を一貫性あるものとして策定し、公表するものとする。

①修了認定・学位授与の方針、②教育課程編成・実施の方針、③入学者受け入れの方針

（学校教育法施行規則一部改正平成28年3月31日改正、平成29年4月1日施行）

学 生

- 芸術、情報、工学、社会科学の出身者等、分野の多様化が進んでいます。
- 社会人経験者が2～4割を占めます。
- 全国各地からの学生構成となっています。

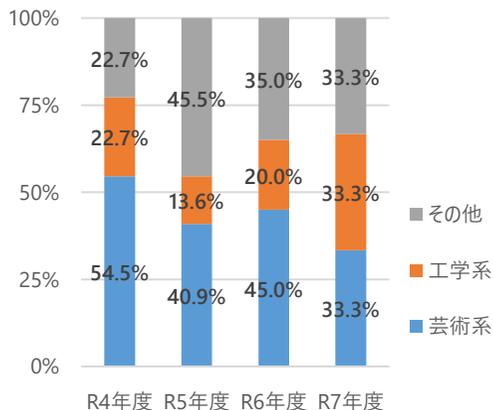
- 修士課程 学生受入状況 (人)

	入学者 (倍率)		性別			出身地別			経歴別				
			男	女	県内	県外	外国	大卒業	院修了	高専	研究生	専門 学校等	社会人
R7年度	21	(1.9)	12	9	1	20	3	13				1	7
R6年度	19	(1.9)	10	9	1	17	1	19					2
R5年度	22	(1.9)	11	11	2	17	3	20	1			1	5
R4年度	22	(1.3)	17	5	2	18	2	20	1			1	8
R3年度	22	(1.6)	13	9	7	12	3	18	3			1	8

- 博士後期課程 学生受入状況 (人)

	入学者 (倍率)		性別			出身地別			経歴別				
			男	女	県内	県外	外国	大卒業	院修了	高専	研究生	専門 学校等	社会人
R7年度	3	(1.3)	2	1	0	3	0		1				2
R6年度	2	(1.5)	2	0	0	2	0		2				2
R5年度	3	(1.3)	2	1	0	3	0		3				2
R4年度	2	(1.0)	1	1	1	1	0		2				2

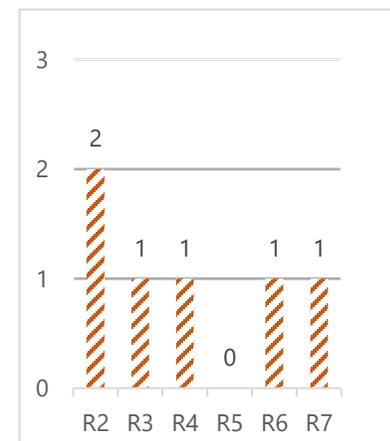
- 出身分野 (%)



- 出身大学等

- R7 - 慶應義塾大、名古屋芸術大、二松学舎大、同志社大、東洋大、創形美術学校、長岡造形大、東京理科大、九州大、岐阜大（院）、多摩美術大、東京芸術大、佐賀大、武蔵野美術大、法政大、広島市立大（院）、金城学院大、大阪芸術大、東京外語大、金沢美術工芸大、成安造形大、相愛大、シウトウトガルト音楽・演劇大
- R6 - 東京外国語大、武庫川女子大、武蔵野美術大、慶應義塾大、福島大、大阪芸術大、岡山県立大、会津大、法政大、熊本県立大、名古屋芸術大、近畿大、成安造形大、大阪公立大、京都市立芸術大、university of the arts london、大阪大（院）、上海戯劇学院
- R5 - 舞鶴工業高専、多摩美術大、大阪芸術大、立命館大、京都産業大、武蔵野美術大、東京女子大、玉川大、京都工芸繊維大、学習院大、東京大（院）、慶應義塾大、東京造形大、慶應義塾大、早稲田大（院）、IAMAS（院）、名古屋大学（院）、University of Southern California

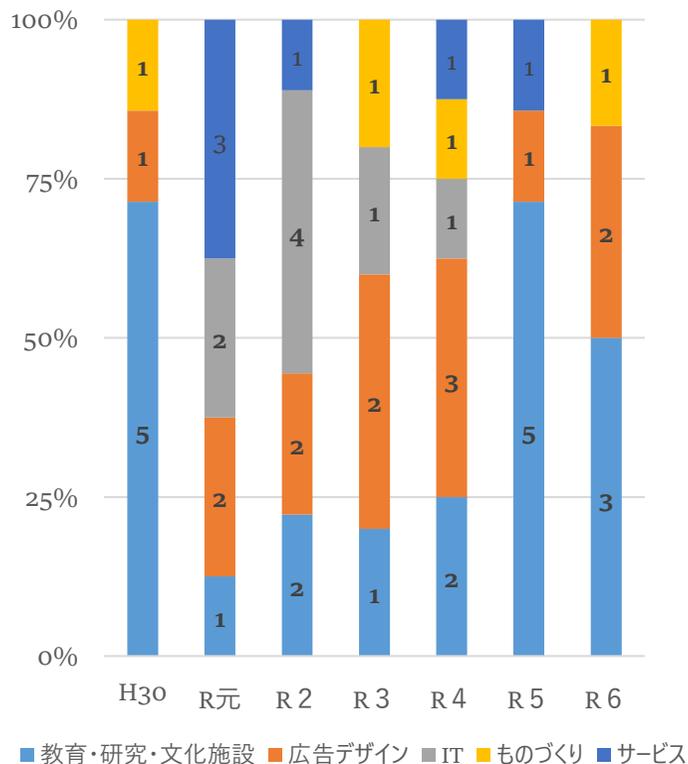
- 研究生の受入状況 (人)



進路

- 教育機関や文化施設、広告やデザイン系企業への就職が多い傾向となっています。
- フリーランスや自営でデザインやアートなどクリエイティブな仕事をする者もいます。

- 進路状況 (人)



- 修了生の進路

- 就職先 (過去の主な就職先)

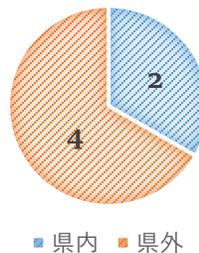
- 県内
 (株)インフォファーム、(株)TAB、本巣市地域おこし協力隊、岐阜各務野高等学校、中村直永デザイン事務所、Fresh Lab Takayama、(公財) ソフトピアジャパン、(株)GOCCO、ちよいみせキッチン、IAMAS

- 県外
 NHK、名古屋音楽大学、(公財) 京都芸術文化協会京都芸術センター、(株)オルタスジャパン、多摩美術大学、(株)サイバーエージェント、(株)ケイズデザインラボ、ユカイ工学(株)、(株)日本テレビアート、(株)二番工房、京都造形芸術大学、(株)プロノハーツ、Noiz Architects、NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]、(有) BANZAI CREATIVE、愛知淑徳大学、Takram desing engineering、(株)電通、(株)博報堂プロダクツ、(株)カヤック、(特非) こどもNPO、山口芸術情報センター[YCAM]、京都精華大学、秋田公立美術大学、(株)ゼオ、(株)QUANTUM、神戸芸術工科大学、(株)ライゾマティクス、名古屋芸術大学、(株)Hakbee Lanka、(株)桃鶴堂、(株)丹青社、1-10 drive、都城市立図書館、東京藝術大学、静岡文化芸術大学、同志社女子大学、関西学院大学、ANKR、DESIGN、SODクリエイト(株)、チームラボ(株)、EPF(株)、北アルプス国際芸術祭実行委員会事務局、ローランドディー.ジー.(株)、(株)HAPPY ANALYTICS、(株)日本ビジネスプレス、(一財) JR東日本文化創造財団、(株)TASKO、Metalium(合)、愛知県立緑丘高校

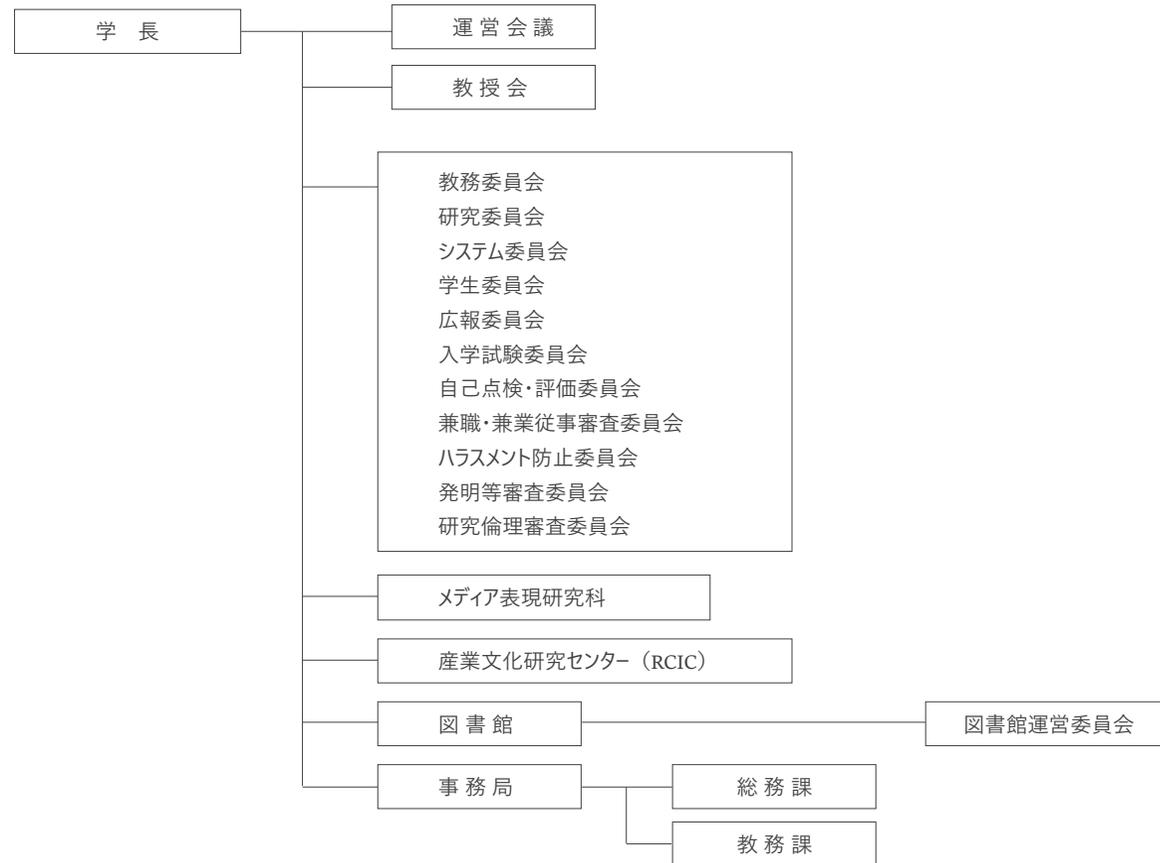
- 進学 (過去の進学先)

- 京都市立芸術大学大学院美術研究科博士 (後期) 課程、慶應義塾大学大学院後期博士課程

- 就職先県内外別 R 6 (人)



組織図



教職員数

	教授	准教授	講師	助教	教員合計 (左計)	事務局 職員	専門職等
大学院大学	13	5	1	0	19	11	13
(うち女性)	(1)	(2)	(1)		(4)	(7)	(6)

RCIC

- 産業文化研究センター（Research Center for Industrial Culture 通称RCIC）は2011年度より開設されたIAMASの附置研究機関です。
- 産業文化に関する学際的・総合的な研究を行うとともに、学外の諸機関との連携を図りつつ、本学の社会的機能を維持・発展させることを目的とし、「地域連携・産学官連携活動」「広報・情報アーカイブ活動」「文化活動」の3つを軸として活動しています。
- 近年は、県内の自治体や企業とのネットワーク構築や、IAMAS卒業生との連携・協力等によるIAMASネットワークの強化にも力を入れながら、様々な活動を展開しています。

地域連携・産学官連携活動

- ❖ 岐阜県立岐阜高校の「高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）」にRCICが企画協力の形で「やながせを聴く～フィールドレコーディングワークショップ～」を開催

卒業生で音響作家のウエヤマトモコさんを迎え、岐阜市柳ヶ瀬エリアを散策し、参加者がフィールドレコーディングを通じて身近な場所や人々を新たな視点で再認識するワークショップを実施しました。収録した音声は、音声ARスマートフォンアプリ（AR Audio Guide）を活用し、マップ上で録音場所に対応したサウンドとして再生できるようにし、空間を移動しながら音を聴取することで、より深くその場を感じる体験について考える機会としました。

「やながせを聴く～フィールドレコーディングワークショップ～」

日程：2024年7月10日(木)～11日(金)
場所：岐阜市中央青少年会館



令和7年度 デジタル人材育成PG

やながせを聴く ～フィールドレコーディングワークショップ～

学校を飛び出し、街へ出よう！街のさまざまな音を拾い集め、デジタルを駆使して音で街を表現しよう！！

日時 7月10日(木) 13:20 集合 岐阜市中央青少年会館
13:30～14:00 説明
14:00～15:30 フィールドワーク(柳ヶ瀬周辺)
15:30～17:00 音のマップ作成、解散

7月11日(金) 13:20 集合 岐阜市中央青少年会館
13:30～15:30 アーカイブサウンド体験・ディスカッション
16:00 プログラムのまとめ、解散

講師 ウエヤマ トモコ さん
音響作家
株式会社easy1代表取締役
愛知県立国府宮大学メディア映像専攻スタジオ職員
名古屋造形大学 情報表現領域 非常勤講師
名古屋芸術大学 デザイン領域 非常勤講師

企画 情報科学芸術大学院大学【IAMAS】
産業文化研究センター【RCIC】

定員 10名程度(1～3年希望者)
※10名程度(1～3年希望者)の定員は、希望者数に応じて変動する可能性があります。



広報・情報アーカイブ活動

- ❖ Kioskを使用したポスター展示

Action Design Research Projectが制作した空間デザインシステム「Kiosk」を使用して、IAMASの学校紹介とRCICの連携活動報告展示を行います。ポスター展示だけでなく、IAMAS School Guideや大学院紀要など、各種印刷物の配布も行います。

2025年度展示：

「IAMAS OPEN HOUSE 2025」
日程：2025年7月19日(土)～20日(日)
場所：ワークショップ24 5F W508
プロジェクト室



文化活動

- ❖ OPEN HOUSE

メディア表現研究科の教員と在学生在が多様な研究成果を発表するイベントです。本イベントは学校紹介や進学相談の機会も担っています。科学的知性と芸術的感性の融合を目指した理論と応用を实践する研究科の取り組みを来場者と共有することを目的として、毎年開催しています。

- ❖ IAMAS OPEN HOUSE 2025

2025年7月19日(土)～20日(日) 10:00～17:00
実施形態：対面開催
URL www.iamas.ac.jp/openhouse/

- ❖ Ogaki Mini Maker Faire 2024

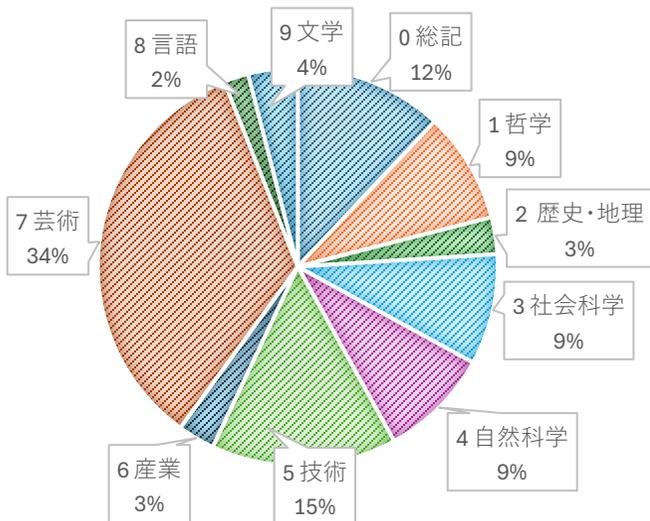
2024年11月23日(土)～24日(日)
場所：ソフピアアジアバン・センタービル
実施形態：対面開催
URL <https://www.iamas.ac.jp/ommf2024/>



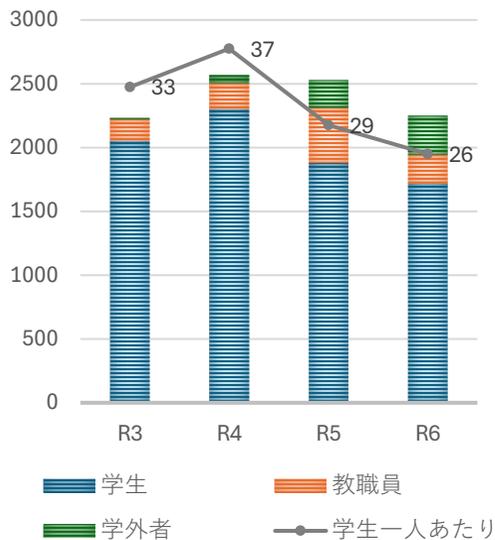
附属 図書館

- 教育研究支援...メディア表現の教育研究に資する資料を重点的に収集しており、蔵書構成では総記(情報)、技術、芸術の分野の割合が大きくなっています。
- 地域貢献...学外者(県内在住・在勤)の利用にも対応しており、地域に開かれた図書館として機能しています。
- その他...移転後10年が経過し、環境整備、蔵書管理など累積している課題を解消するとともに、独自資料を中心にアーカイブ化も検討しています。

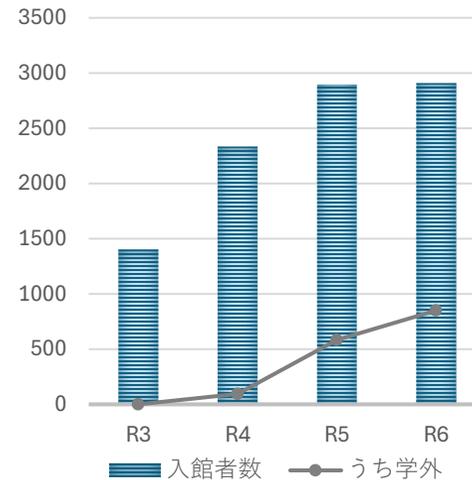
・分類別蔵書割合



・貸出点数



・入館者数

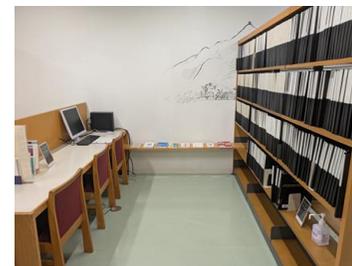


ー 蔵書数 (R6.3現在)

図書	49,482冊
視聴覚資料 (DVDなど)	3,336点
雑誌	196種
データベース	1種
電子ジャーナル	6種

ー 取り組み

- R6年度実施
- ・約500冊を除籍し、あわせて蔵書データを整理
 - ・不要なコーナーを解体し、書架掃除と資料の配置換えを実施
 - ・学内専用の修士・博士論文閲覧スペースと視聴覚スペースを設置
- R7年度予定
- ・倉庫内の資料を含めた3,000冊の除籍
 - ・独自資料の整理、活用の検討



教育

- IAMASでの授業は、個人、グループ、社会という構成を特色としています。「特別研究科目」は研究活動に対する課題解決に必要な方法等を習得するゼミ形式によるチームティーチングを特色とする科目です。
- 制作演習は、プロジェクト実習や個人制作を行うにあたって重要と思われる実践的なスキルを習得することを目的とした授業です。
- 2019年度から「社会人短期在学コース」を設置しました。また、2021年4月に博士後期課程を開設しました。

- 博士後期課程の設置（2021年4月開設）

IAMASは、修士課程のみの大学院大学として、最新の科学技術や文化を吸収しながら先端的な「芸術表現やデザイン、新しいコミュニティやものづくりのあり方などを社会へ提案し、実践的な研究を通じて「高度な表現者」の育成を目指してきました。

しかし、大学院において設置が一般的な博士後期課程が無いことで（国公立大学における博士課程設置率は約85%）、優秀な人材が他大学を選択したり、IAMASを卒業後に、さらに研究を継続したい学生がやむを得ず他大学の博士課程に進学するなどの課題が生じています。

そのため、修士2年、博士3年、計5年間の一貫教育研究体制を整備し、大学の魅力度を高め、社会実践力のある研究成果を生み出せる体制整備を目的として、博士後期課程の新設を申請し、2020年10月に文部科学大臣より認可を受け、2021年4月に開設しました。

[博士後期課程]

開設年月：2021年4月
修業年限：3年
入学定員：3人

[2025年度入学者数]

出願者数：4名
入学者数：3名（男性2名、女性1名）

[2021年度入学者]

出願者数：6名
入学者数：3名（男性3名）

[2022年度入学者数]

出願者数：2名
入学者数：2名（男性1名、女性1名）

[2023年度入学者数]

出願者数：4名
入学者数：3名（男性2名、女性1名）

[2024年度入学者数]

出願者数：3名
入学者数：2名（男性2名）

- 社会人短期在学コースの設置

本学は、2019年度より社会人短期在学コースを設置しました。

このコースは、作品制作や社会活動など何らかの実績がある人々や、企業などで先駆的な研究・開発テーマに取り組んでいる人々を対象とし、本学でそれらの実績を基に研究を進めることを前提として、通常は2年間の大学院修士課程を1年間に凝縮したカリキュラムで実施するコースです。

[コースの特徴]

通常は2年間の修士課程が1年間に凝縮されている他は全く同じ内容のコースとなっており、夜間や休日に開催される独立したコースではありません。

このため、自らの活動を振り返り、関連する分野について学び、徹底的に言語化することに集中できます。また、同時期に在学する他の学生と一緒にチームとして活動することを通じて、異分野の刺激を受け、修了後も継続する関係性を構築することができます。

[2021年度入学者]

入学者数：2名

[2022年度入学者数]

入学者数：3名

[2023年度入学者数]

入学者数：1名

[2024年度入学者数]

入学者数：0名

[2025年度入学者数]

入学者数：0名

研究

プロジェクト型研究:

- IAMASの研究の中心の一つにプロジェクト研究があり、研究の関心や方向性が示されます。これからの社会における創造や新しい社会を創るデザインをテーマにした研究が増えています。
- プロジェクト研究では、広い視野と企画力、組織力、加えてアイデアを実現に導くマネージメント能力などを身につけることを目指します。

場所・感覚・メディア Place Sense Media

センサリー・メディア（感覚的メディア）としての映像や音響による「場所」の表象を多角的に捉え直し、芸術表現の可能性を探求します。2025年度は、映像人類学や社会的介入に取り組むアーティストのドキュメンタリー映像の鑑賞を端緒とし幅広い議論を行っています。オープンハウスにおいては、グループワークによる作品展示とトークイベントを開催し、後期はさらに野外活動や場所体験を重視し、メンバーそれぞれの作品制作につながる授業を展開します。最終的な成果として、作品制作と展示イベントを計画、実施します。

研究代表者：前林明次教授
研究分担者：小林孝浩教授、立石祥子講師
2022年度～

【2025年度の活動】

- 映像人類学映画や芸術実践ドキュメンタリー映画の鑑賞とディスカッション（6月～7月）
- 「郊外」「集合的記憶」を題材とした表象の解釈と議論（6月～7月）
- 金生山におけるフィールドワーク（7月）
- オープンハウス（7月）
 - トークイベント「想起と記憶芸術」の開催
 - 「旧IAMAS校舎を起点とする場所の再解釈と表現」の制作と展示



IAMAS卒業生インタビューのコーディング作業



旧校舎映像を背景にした卓球プレイヤー

Collaborative Design Research Project

消費を前提とした社会的な閉塞感からサステナビリティへ移行しつつある中で、問いやデザインのあり方が問われています。特に地方や企業において、デザインがひとつのツールとして捉えられる傾向があり、デザインプロセスの理解や関わりも含め関係性を再検討し、新たな問いへ取り組まなければなりません。これまでの原因と結果に基づいた近代的デザイン方法を乗り越えるためにも、デザインする人と対象との関係や全体性も含めデザインが関係・影響する範囲を検討していきます。

研究代表者：鈴木宣也教授
研究分担者：赤羽亨教授
2023年度～

【2025年度の活動】

- 飛騨家具パラメトリックデザイン
飛騨の家具フェスヘリサー・トリップし、飛騨の職人の方々が木材の個性を活かしたデザインを展開していることがわかりました。また5軸CNCで彫刻のような複雑な形の加工が可能になるため、3Dハンディスキャナと合わせることで家具フェスで調査したような、木材個々に合わせたデザインの可能性を検討し、プロトタイプの作成しています。
- 岐阜外国人支援
これまで外国人の方や、それを支援する方へインタビュー調査をしてきました。これに引き続き、外国人の異国での生活体験をフォトエスノグラフィという調査方法を用い調査しています。調査から見えてきた課題に対する具体的な提案を、プロトタイプを通じて模索しています。



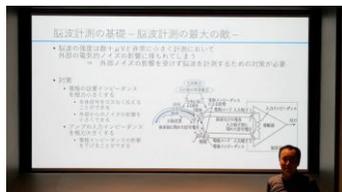
Augmented State Project

近年、意識に対する関心が高まりサイケデリックに関する研究が進展しています。これにより、変性意識状態が精神的安定をもたらすことが明らかになり、AIによる知能のシミュレーション等による意識や体験への新たなアプローチが可能となっています。本研究は、映像や音楽、XR技術を通して変性意識体験を表現する手法とテクノロジーを探求していきます。また、実験成果は学術発表にとどまらず、NxPC.Labの活動を通じて外部への実践に繋がることが期待されています。

研究代表者：平林真実教授、
研究分担者：前田真二郎教授、小林孝浩教授、飛谷謙介准教授
2025年度～

【2025年度の活動】

- 脳波計測ワークショップ（7月）
- 愛知県立大学 山崎陽一先生による脳波計測のワークショップを実施し、Dreamachineの体験時の脳波計測を実施オープンハウスにてDream machineを展示（7月）
- プライオン・ガイシンのDream machineを展示し体験展示を行った。その他、変性意識に関する資料（ドキュメンタリー、論文、書籍）のリサーチを行っている。NxPC.Labの活動としては、6月の新入生イベント「NxPC.Live vol.74 肩で風を切って歩く」、7月のオープンハウスにおいてゲストに武田真彦氏を承知しイベント「NxPC.Live vol.75 Fuel Haus」を実施した。



山崎先生WS



OHでのDream machine展示



NxPC.Live vol.74



NxPC.Live vol.75

運動体設計

運動体とは、時間の経過とともに空間内の位置を変える現象や活動と定義し、日々の実践を遂行するための知見や方法論を探索します。アイデアを具体化するためのプロセスを検証し公開することを目的とします。任意グループ「クリティカル・サイクリング」の約6年間の実践を基盤とし、萌芽プロジェクト「プラクティカル・サイクリング」を経て、このプロジェクトを実施します。手法としては、「運動体」にまつわる何らかの実践が芸術的、社会的、学術的な意義に繋がることが検証されます。ここでの実践とは、グラフィック、詩、映像、ワークショップ、など様々な展開が想定されます。

研究代表者：瀬川晃准教授
研究分担者：赤松正行教授
2023年度～

【2025年度の活動】

活動成果の展示

- オープンハウス2025
会期：2025年7月19日（土）～20日（日）
- 養老天命反転地30周年記念事業（Living Body Museum in Yoro）
会期：2025年11月15日（土）～16日（日）
- 卒展：IAMAS2026（プロジェクト展示・発表）
会期：2026年2月20日（金）～23日（月）
- クリティカル・サイクリング展示事業
会期：2026年3月14日（土）～15日（日）



自転車でコンピュータを操作する



暗間で聴覚と触覚による異世界を体験する

Extreme Biologies

エクストリーム・バイオロジーズは、バイオテクノロジーと文明的価値観のもつれ、およびそれが生命の深化に与える影響について、宇宙生物学、生物学、メディアアートの視点から実践をしながら考察を深める実験的なプロジェクトです。プロジェクトでは、進化、エコロジー、地球温暖化、共存、バイオテクノロジーに関する課題とメディアアートの役割について考えます。

研究代表者：ホアン・マヌエル・カストロ准教授
研究分担者：前林明次教授、菅実花准教授
2024年度～

【2025年度の活動】

- ・コケ、クマムシ、線形動物、ワムシなどの観察と実験（6月・7月）
- ・名古屋市科学館の見学とIAMAS近隣においてコケと微生物を採集するフィールドワーク（6月・7月）
- ・IAMASのOPEN HOUSEにて、ワークショップと研究活動についての展示（7月）
- ・大垣市サイトピアセンターで小学生とその家族を対象としたワークショップ「サイトピアでクマムシを見つけよう！」の実施（9月）
- ・パンスペルミア説や生命の進化に関するディスカッション（10月・11月）
- ・大垣市サイトピアセンターで展覧会「Extreme Biologies – 極限環境に生きる、眠る、漂う」の実施（12月）



テクノロジーの〈解釈学〉

テクノロジーのうち人工知能に代表される高度で複雑化したハイテクノロジーは、単なる道具に還元されブラックボックス化されるか、不可避で抗えない変化をもたらすものとして扱われる傾向にあります。本プロジェクトでは、テクノロジーに関する責任を手放さず、かといって決定論的なものとして絶望しないための方策として、自在に〈解釈〉ができるという考え方に基づく作品群を提示すると共に、それらの作品群と体験者たちの経験を基に「テクノロジーの〈解釈学〉」として理論化することを試みます。また、テクノロジー／テクニクスの語源であるテクネー（技術知）は、アルス（芸術）や技芸をも意味する広義の概念であることを踏まえ、近代技術や機械技術に基づく今日のテクノロジーを、それ以前の技術的パラダイムに対して特別視する状況を再考します。

研究代表者：小林茂教授
研究分担者：大久保美紀准教授
2024年度～

【2024年度の活動】

- 後期
- ・文献購読：『メディア考古学とは何か？』『技術の道徳化』
 - ・作品の再制作：《The sound of empty space》《RainDance》
 - ・プロジェクト研究発表会での展示

【2025年度の活動】

- 前期
- ・文献購読：『ベルナルド・スティグレールの哲学』
 - ・作品の再展示：平瀬ミキ《冰山の一角》2018/2024



平瀬ミキ《冰山の一角》再展示に至る作業と展示の様子

The Art of Listening

「きくこと」は人と人が関係する全ての営みの土台だといえます。そして、「きくこと」は私たちの研究や表現活動においてもとても重要です。個人のナラティブから公人のインタビューに至るまで、リサーチャー、フィールドワーカー、アーティスト、アーキヴィスト、エンジニアなどが、「きくこと」の実践を行っています。一方、語ることは、語り手と聞き手の相互行為による共同生成でありながら、「語り」に注目が集まり、「きくこと」に対してはあまり議論されていません。実際、多くの人たちにとって「きくこと」は受動的と思われるのかもしれませんが、また、「きくこと」は過去や現在に関わる行為であって、それが未来へつながるとはあまり考えられていません。AOLでは、「きくこと」を表現技法として位置づけ、その方法論や実践、哲学的意義にアプローチすることを通じて、自発的で創造的な行為として考えていきます。

研究代表者：金山智子教授

研究分担者：吉田茂樹教授、松井茂教授

【2025年度の活動】

* 文献購読

鷺田清一『「聴く」ことの本質』

* 多様な「きく」の実践

6月IAMAS旧校舎の見学

6月岐阜柳ヶ瀬「ムラン・ルージュ」見学

7月本学オープンハウス インタラクティブ展示『黒電話』の企画・実施

8月池田町有線放送電話研究会とコラボしたワークショップ

10月各メンバーの作品や活動の発表

10月池田町有線放送電話研究会とコラボした展示

* プロジェクトの活動公開

AOLのウェブサイトにて活動を逐次アップデート

後期からプロジェクトの総括とメディア制作



旧IAMAS校舎見学



やながせムランルージュ見学

共同研究 受託研究

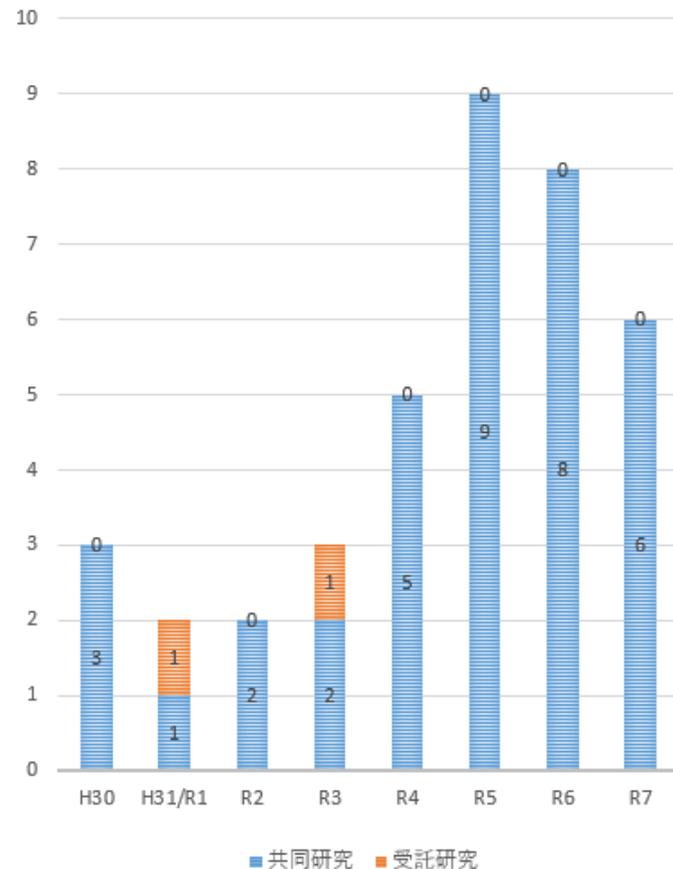
- ※ 共同研究 : 必ずしも研究資金の授受を問わず、人材交流や技術・施設の共用による研究であり、契約を締結したもの
- ※ 受託研究 : 官公庁、自治体や民間企業などから受託して行う研究

共同・受託研究

2025年度 (令和7年度)	- (株)マーブル	テーマ:MR空間において共有された身体と生体情報を使った表現システムの開発とその展開可能性の研究 (赤羽亨教授)
		テーマ:MRを用いた空間設計におけるユーザーインターフェース (赤羽亨教授、飛谷謙介准教授)
		テーマ:MR空間において共有された身体と生体情報を使った表現システムの開発とその展開可能性の研究 (平林真実教授)
	- 三菱電機(株)(赤羽亨教授)	テーマ: データビジュアライゼーション研究
	- 大垣市 (赤羽亨教授)	テーマ: メディア表現を活用した体験型学習のデザイン
2024年度 (令和6年度)	- 東京コンピュータサービス(株) (赤羽亨教授)	テーマ:MR空間において共有された身体とアバターを使った即興的な音楽創造システムの研究開発
		テーマ:MRを用いた空間設計におけるユーザーインターフェース
	- 東京コンピュータサービス(株) (平林真実教授)	テーマ: デジタルツイン環境を前提とした、MR/AR/VRを用いた表現システムの開発とその展開可能性についての研究
	- (公財) 岐阜かかみがはら航空宇宙博物館(赤羽亨教授)	テーマ: 学習資源を活用した学習環境デザインに関する研究 他2本
	- 大垣市 (鈴木宣也教授、赤羽亨教授)	テーマ: メディア表現を活用した体験型学習のデザイン
2023年度 (令和5年度)	- 東京コンピュータサービス(株) (平林真実教授)	テーマ:デジタルツイン環境を前提としたMR/AR/VRを用いた表現システムの開発とその展開可能性についての研究
	- 岐阜市 (赤羽亨教授)	テーマ: 市民ワークショップを通じた屋外用メディアラボの製作プロセスに関する実践的研究
	- (公財) 岐阜かかみがはら航空宇宙博物館(赤羽亨教授)	テーマ: 学習資源を活用した学習環境デザインに関する研究 他2本
	- 大垣市 (鈴木宣也教授、赤羽亨教授)	テーマ: メディア表現を活用した体験型学習のデザイン
	- (株) asyl / (株) FLAME (赤羽亨教授)	テーマ: AR音声ガイドに特化したサウンドデザインに関する研究 / AR音声ガイドに関するUI設計に関する研究
	- 三菱鉛筆(株) (鈴木宣也教授・赤羽亨教授)	テーマ: アイデアスケッチを活用したデザインプロセスに関する実践研究

共同・受託研究件数

2025.09現在



外部資金研究

- 公費や財団助成による研究、受託や委託研究と多くの研究が実施されています。
- 他機関の研究に研究分担者として参加する教員も増えています。

- 外部資金研究

科学研究費 / 日本学術振興会 Grant-in-Aid for Scientific Research

- 基盤研究 C 鈴木宣也教授
R5-R7 描画支援技術に対応したヴィジュアル・リテラシーの再定義と教育プログラムの開発
- 基盤研究 C 松井茂教授
R5-R7 音響技師 菊池信之の映画音響表現技法研究
- 基盤研究 C 赤羽亨教授
R5-R9 鑑賞者主観情報と時空間データによるVRアーカイブシステム開発
- 基盤研究 C 飛谷謙介准教授
R5-R9 鑑賞者主観情報と時空間データによるVRアーカイブシステム開発
- 基盤研究 C ◎平林真実教授
R6-R8 暗所におけるARを実現する手法と暗所におけるAR表現の探究
- 基盤研究 C ◎松井茂教授
R6-R10 「間展」の間、磯崎新の間——ポストモダニズムの美学を再考する
- 基盤研究 B 飛谷謙介准教授
R7-R9 感性物性統合学の確立：個人感性の類型化とクロスモーダル推薦
- 基盤研究 B 高森順子研究員
R7-R10 能登半島地震の復興テリトリー研究-ポスト近代復興手法のアクションリサーチ

◎ = 研究代表者

- 公益財団法人小川科学技術財団研究助成金

- R1-R2 重要民俗無形文化財の継承支援のための四次元データアーカイブ（小林孝浩教授）
R1-R2 デジタルファブリケーションを前提としたデザインシステムの開発（赤羽亨教授）
- R5-R7 XR技術を活用した博物館展示デザインに関する研究（赤羽亨教授）

- 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国際日本文化センター

- 重点共同研究 ◎松井茂准教授、前田真二郎教授、伊村靖子講師
R1 マス・メディアの中の芸術家像

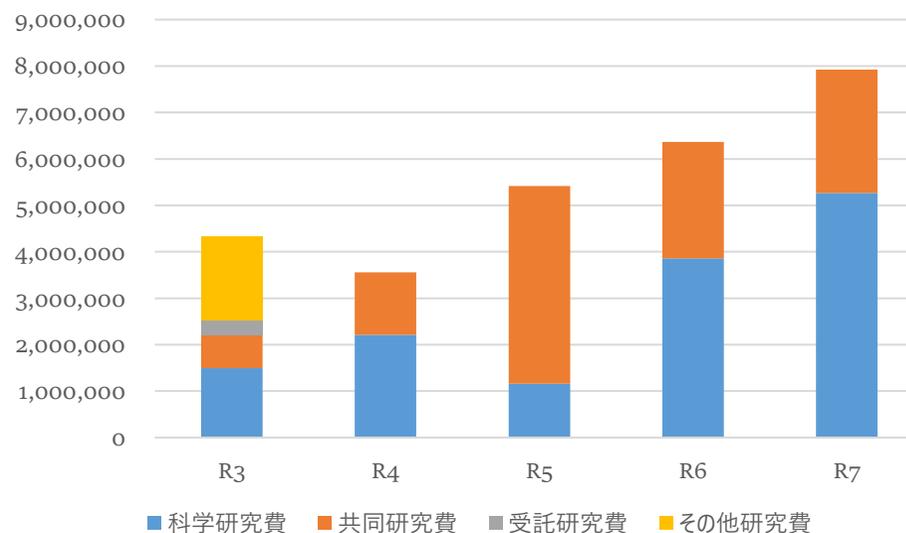
- 京都大学人文科学研究所

- 共同研究拠点 ◎三輪真弘学長、松井茂准教授
R1 「システム内存在としての世界」についてのアートを媒介とする文理融合的研究

- COI拠点「感性とデジタル製造を直結し、生活者の創造性を拡張するファブ地球社会創造拠点」 (国立研究開発法人科学技術振興機構)

H25-R3 小林茂教授

- 外部資金調達額 ※R7年度は8月末まで



受賞

IAMASの学生・教員は、毎年、各種の分野で賞を受賞しています。修了生の活躍については、近年ますます注目されています。

—2025

石井飛鳥（博士前期課程1年）
クマ財団「クリエイター奨学金」第9期生採択

藤堂高行（2014年卒業）
『鎖に繋がれた犬のダイナミクス』
Prix Ars Electronica 2025 Artificial Life & Intelligence Honorary mention

Scott Allen（2016年卒業）
『Activated Fragments -parallelized-』
CVPR2025 AI Art Gallery採択

新垣隆海（アーティスト名：JACKSON kaki）（2024年卒業）
映像作家100人2025 選出

綿貫岳海（2018年卒業）
映像作家100人2025 選出

今谷真太郎（2023年卒業）
映像作家100人2025 選出

加藤明洋（2018年卒業）
『Handmade Blockchain』
ComoNeプログラム#01「COMMON NEXUS -“私たち”の遭遇-」ファイナリスト選出

内田聖良（2015年卒業）
『バーチャル供養講』
ComoNeプログラム#01「COMMON NEXUS -“私たち”の遭遇-」ファイナリスト選出

ソフトバンク先端技術研究所・真鍋大度（2004年卒業）・東京大学
生産技術研究所 池内与志穂研究室
「Brain Processing Unit」
S+T+ARTS PRIZE Honorary Mention

企画代表：ウエヤマトモコ（2003年卒業）
『回遊するサウンドアーカイブー千種区』
Common Nexus『ねのねプログラム』第1期生採択

浅井睦（2025年卒業）
高次素材技術オープンラボMelt.「コンピューテーショナル食感デザインプロジェクト」
「知財番付 2024」入選知財

トーチ（代表：佐野和哉（2017年卒業））
「ポッドキャストを起点とした、アートとテクノロジーの越境的ネットワーク形成」
一般財団法人 おおさか創造千島財団の2025年度公募助成「創造的場づくり助成」

クリティカル・サイクリング（主催：赤松正行（教授）、事務局長：志村翔太（2024年卒業））
「クリティカル・サイクリング展 この大きな空の下、風になる」
公益財団法人 花王芸術・科学財団 2025年度芸術文化部門 メディアアート展覧会助成

The Sight of Cline 実行委員会（代表：福島諭（産業文化研究センター研究員、博士後期課程3年））
「The Sight of Cline（仮）」
公益財団法人 花王芸術・科学財団 2025年度芸術文化部門 メディアアート展覧会助成

展覧会moidsプロジェクト実行委員会（三原聡一郎（2006年卒業）、斉田一樹（2006年卒業）、他）
「展覧会moidsプロジェクト」
公益財団法人 花王芸術・科学財団 2025年度芸術文化部門 メディアアート展覧会助成

志村翔太（博士前期課程2年）
『モビル文学 大垣ロストステーション』
Next Young Artist Award 2024 アート&ニューメディア部門 奨励賞
Next Young Artist Award 2024 NEW CHITOSE GENIUS賞

志村翔太（博士前期課程2年）
『Perfect Summer』
茨木映像芸術祭 2024-2025 入選

浅尾楽（博士前期課程2年）
「ガンギマリネコと見つめるレンズ」
浪江学生デジタルアート道場2024 学生アーティスト採択

—2024

川又龍人（2022年卒業）
株式会社 PxCell「PxCell Wear（ピクセルウェア）」
「知財番付 2024」入選知財

drawCircle合同会社（加藤明洋（2018年卒業）、他）
「Refresh Science（仮）」
公益財団法人 花王芸術・科学財団 2025年度芸術文化部門 メディアアート展覧会助成

林賢黙（2023年卒業）
『well messed clavier』
2024 20th WOCMAT (Workshop on Computer Music and Audio Technology) 入選
2024 20th WOCMAT Phil Winsor International Youth Computer Music Competition Award

浅井睦（Metalium llc.）（博士前期課程2年）
UNKNOWN ASIA 2024 間宮尊賞

成瀬陽太（博士前期課程2年）
『Sight / Insight』
ISCA2024 (INTERNATIONAL STUDENTS CREATIVE AWARD 2024) デジタルコンテンツ部門 佳作

對中優（博士前期課程2年）
『in a slumber – 肌のタイヤ』
2024 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 学生カテゴリー インタラクティブアート部門 優秀賞

椋木新（2023年卒業）、三次元大介
『TETOMO』
2024 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 一般カテゴリー インタラクティブアート部門 優秀賞

椋木新（2023年卒業）
『SPIRO MAKER』
2024 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 一般カテゴリー インタラクティブアート部門 入賞

env.（金箱淳一（2008年卒業）+ 原田智弘 + 中村開）
『Blooming Speaker』
2024 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 一般カテゴリー インタラクティブアート部門 入賞

志村翔太（博士前期課程2年）
『異邦人』
第三回AIアートグランプリ 佳作

佐野風史、城戸双汰朗（博士前期課程1年）、鶴目佳蓮（博士前期課程1年）
《耳研澄装置製造工場》
IVRC2024 LEAP STAGE 青沼優介賞
IVRC2024 ヤマハ株式会社賞
IVRC2024 CRI・ミドルウェア賞

中村駿（博士前期課程1年）
『カサネ色』
2024年度グッドデザイン・ニューホープ賞 入選

山岸奏大（2024年卒業）
『Grasp(er)』
2024年度グッドデザイン・ニューホープ賞 入選

すずえり（鈴木英倫子）（2007年卒業）
第18回 shiseido art egg 入選

森田明日香（2024年卒業）、山岸奏大（2024年卒業）
『Translate a passage』
アートと遊びと子どもをつなぐメディアプログラム2024・汗かくメディア賞

浅井睦（Metalium llc.）（博士前期課程2年）
『Superposition machine』
「クセがあるアワード：混」佐藤正和審査員賞

西田騎夕（2022年卒業）
『アロエベラシンセサイザー』
「クセがあるアワード：混」福原志保審査員賞

石橋友也（博士後期課程2年）
『Self-reference microscope』
令和6年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 国内クリエイター創作支援プログラム採択

阿部和樹（2022年卒業）
『手描きの計算』
令和6年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 国内クリエイター創作支援プログラム採択

藤堂高行（2014年卒業）
『鎖に繋がれた犬のダイナミクス』
令和6年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 国内クリエイター創作支援プログラム採択

芹澤 碧（博士前期課程1年）
『Is there そこにいる』
令和6年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 国内クリエイター発表支援プログラム採択

對中 優（博士前期課程2年）
『paper planes sphere』
令和6年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 国内クリエイター発表支援プログラム採択

松井美緒（博士前期課程2年）
『残波』
令和6年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 国内クリエイター発表支援プログラム採択

長島勇太（2006年卒業）
『Archival Practice for Site-Specific Works 3.0』
令和6年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 国内クリエイター発表支援プログラム採択

浅井睦（博士前期課程2年）
高次素材技術オープンラボMelt.「コンピューターシヨナル食感デザインプロジェクト」
第1回 Tech Direction Awards R&D/Prototype部門 Bronze賞

高山祐輝、根岸溪介、川又龍人（2022年卒業）
『mokemoke』
SHIBUYA QWS QWSチャレンジ採択

—2024

芹澤 碧（博士前期課程1年）
デジタル等クリエイター人材創出事業「Flying Tokyo 2024」採択

綿貫岳海（2018年卒業）
デジタル等クリエイター人材創出事業「Flying Tokyo 2024」採択

兒島朋笑（博士前期課程2年）
クマ財団「クリエイター奨学金」第8期生採択

佐野風史（博士前期課程1年）、早田仁知（博士前期課程1年）
『Phonoscape Project』
COUNTER POINT 第14期採択プロジェクト

成瀬陽太（博士前期課程2年）
『Sight/Insight - 運動知覚・探索的行為から光の見方の意識の変容を試みる-』
COUNTER POINT 第13期採択プロジェクト

Scott Allen（2016年卒業）
『Unreal Pareidolia -shadows-』
CVPR2024 AI Art Award Winners the best artworks

篠田幸雄（2017年卒業）
『causal SW（コーザルスイッチ）：さわれる電子工作応用教具づくりの素材』
令和6年度 第40回 学習デジタル教材コンクール 日本児童教育振興財団賞

岡本悠里（博士前期課程2年）
『月の声を聴くための言葉』
令和5年度ジャグラー作品展 出版印刷物部門 印刷時報(株)賞

菅野創（2009年卒業）、加藤明洋（2018年卒業）、綿貫岳海（2018年卒業）
『かぞくっち』
Prix Ars Electronica 2024 Interactive Art + 部門 Honorary Mention

IMATANI（今谷真太郎（2023年卒業）） × NS
SICF25 EXHIBITION部門 山城大督賞

真鍋大度（2002年卒業）
2024年（第34回）福岡アジア文化賞 大賞

東加奈子、厚木麻耶（2021年卒業）（株式会社電通所属）
Young Lions Competitions 2024 日本予選 PR部門 ゴールド（ヤングカンヌ日本代表選出）
Young Lions Competitions 2024 日本予選 メディア部門 シルバー

「通伝公社」（浅井睦（博士前期課程2年））
第二期アーティストインレジデンス 採択

新垣隆海（アーティスト名：JACKSON kaki）（2024年卒業）
映像作家100人2024 選出

綿貫岳海（2018年卒業）
映像作家100人2024 選出

CCO、Creative Director、Planner：川寄鋼平（2004年卒業）
地球料理 Earth Cuisine「PROUD LIBERICA COFFEE」
2024 Clio Awards Partnerships & Collaborations部門 SILVER

門田健嗣（2024年卒業）
『風景を採取する自転車建築』
JIDF学生文化デザイン賞2024 入選

安野太郎（2004年卒業）
サウンドパフォーマンス・プラットフォーム特別公演 安野太郎ゾンビ音楽
『大霊廟IV—音楽崩壊—』
第23回佐治敬三賞

監督・撮影・編集：高嶋浩（2006年卒業）
『阿寒湖見聞録』
第6回 日本国際観光映像祭 ART&FACTORY Japan部門 Grand Prix

おおしまたくろう（2017年卒業）
『滑琴狂走曲 in 秋田!（カッキンラブソディー・イン・アキタ）』
やまなしメディア芸術アワード2023-24 Y-SILVER（優秀賞）

兒島朋笑（博士前期課程1年）
『be noisy -Ver. 2019-2022』
Web Audio Conference'24 入選

竹澤風太（博士前期課程2年）
制作協力：棕木新（2023年卒業）、平本大輔（博士前期課程2年）、塩澄祥大（博士前期課程2年）、成瀬陽太（博士前期課程1年）
『Informalized Void』
第29回 学生CGコンテスト アート&ニューメディア部門 最優秀賞

大越円香（2023年卒業）
『invisible view』
第29回 学生CGコンテスト アート&ニューメディア部門 入選

今谷真太郎（2023年卒業）
『ARコミック@「壁」』
第29回 学生CGコンテスト ゲーム&インタラクション部門 入選

森田明日香（博士前期課程2年）
『Observing Variation: in Sliced Loin Hams / 差異の観測: スライスロスハム群』
やまなしメディア芸術アワード2023-24 入選作品

楊慶新（博士前期課程2年）
『code play/码上演绎』
やまなしメディア芸術アワード2023-24 入選作品

大久保雅基（2016年卒業）
音楽劇「声のゆくえ」
やまなしメディア芸術アワード2023-24 入選作品

Scott Allen（2016年卒業）
『Unreal Pareidolia -shadows-』
やまなしメディア芸術アワード2023-24 入選作品

新津亜土華（2000年卒業）
『Mirror#Narcisse』
やまなしメディア芸術アワード2023-24 入選作品

—2023

- 今谷真太郎（2023年卒業）
『ARコミック「壁」』
日テレマジナリウムアワード XR部門 SILVER MEDAL
- 竹澤風太（博士前期課程2年）
制作協力：椋木新（2023年卒業）、平本大輔（博士前期課程2年）、塩澄祥大（博士前期課程2年）、成瀬陽太（博士前期課程1年）
『Informalized Void』
2023 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 一般カテゴリー インタラクティブアート部門 入賞
日テレマジナリウムアワード XR部門 BRONZE MEDAL
- JACKSON kaki（新垣隆海・博士前期課程2年）
『Avater Performance “桃太郎”』
日テレマジナリウムアワード メタバース部門 審査員奨励賞
- JACKSON kaki（新垣隆海・博士前期課程2年）
『VR Audio Visual Performance “存在している”』
日テレマジナリウムアワード メタバース部門 審査員奨励賞
- 山岸奏大（博士前期課程2年）
『Grasp(er)』
ISCA2023（INTERNATIONAL STUDENTS CREATIVE AWARD 2023） デジタルコンテンツ部門 優秀作
2023 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 学生カテゴリー インタラクティブアート部門 大賞/総務大臣賞
- 塩澄祥大（博士前期課程2年）
『Border』
ISCA2023（INTERNATIONAL STUDENTS CREATIVE AWARD 2023） 国内映像コンテンツ部門 佳作
- 成瀬陽太（博士前期課程1年）
『Interactive Afflatus』
ISCA2023（INTERNATIONAL STUDENTS CREATIVE AWARD 2023） デジタルコンテンツ部門 入選作
- 兒島 朋笑（博士前期課程1年）
『I was there then』
2023 19th WOCMAT (Workshop on Computer Music and Audio Technology) 入選
19th 2023 WOCMAT Phil Winsor International Youth Computer Music Competition Award ノミネート
- 門田健嗣（博士前期課程2年）
『風景を採取する自転車建築』
2023年度 第39回 JIA東海支部設計競技 金賞受賞
- 浅尾楽（博士前期課程2年）
『ふがない空の街』
神ゲー創造主エボリューション2023 ファイナリスト選出
- 志村翔太（博士前期課程1年）
『異邦人』
2023 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 学生カテゴリー 動画部門 優秀賞
- 阿部和樹（2022年卒業）
『アイマノカタチ』
第二回AIアートグランプリ 優秀賞
2023 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 一般カテゴリー 静止画部門 優秀賞
- 金箱淳一（2008年卒業・神戸芸術工科大学准教授）、平島有紗、首藤圭介、永吉宏行、山村美紀、内山博子
『Blooming Boundary』
2023 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 一般カテゴリー インタラクティブアート部門 入賞
- 菅野創（2009年卒業）、加藤明洋（2018年卒業）、綿貫岳海（2018年卒業）
『かぞくっち』
CREATIVE HACK AWARD 2023 ファイナリスト選出
- 川又龍人（2022年卒業）
TOKYO STARTUP GATEWAY 2023 コンテスト部門 セミファイナリスト選出
- 伏田昌弘（2020年卒業）
『Avatar Jockey』
NAGOYA NEW クリエイター映像AWARD VR部門 準グランプリ
- 川田祐太郎（2023年卒業）
『Formation and Perceptualization of “Kairosymbiosis”：Human-Paramecium Interplay』
令和5年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 国内クリエイター創作支援プログラム採択
- 堂園翔矢（2014年卒業）
『ORBITAL ART – 芸術と科学の領域横断コラボレーションによる軌道芸術作品の制作』
令和5年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 国内クリエイター創作支援プログラム採択
- 長野櫻子（博士前期課程2年）
『それぞれの日々』
令和5年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 国内クリエイター創作支援プログラム採択
- 小林玲衣奈（2023年卒業）
『あわいのために』
令和5年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 国内クリエイター発表支援プログラム採択
- 塩澄祥大（博士前期課程2年）
『BMXグラフィティ』
令和5年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 国内クリエイター発表支援プログラム採択
- 柴田一秀（サイバーターン）（2021年卒業）
『サイバーターン』
令和5年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 国内クリエイター発表支援プログラム採択

—2023

譽田千尋（2023年卒業）

『ナハトムジーク』

イメージフォーラム・フェスティバル2023 東アジア・エキスペリメンタル・コンペティション ノミネート

ALIMO（2008年卒業）

『並んだLAND』

イメージフォーラム・フェスティバル2023 東アジア・エキスペリメンタル・コンペティション ノミネート

監督：川添彩、音響デザイン：林暢彦（2023年卒業）

『とおぼえ』

イメージフォーラム・フェスティバル2023 東アジア・エキスペリメンタル・コンペティション ノミネート

川又龍人（2022年卒業）、大谷芳之（2021年卒業）

『Cybor Ichiba』

100BANCH Garage Program採択

すずえり（鈴木英倫子）（2007年卒業）

「移動について」

「OPEN SITE 8」2023年度実施企画 展示部門 採択

佐藤優太郎（2020年卒業）、今井健人、小鷹研理（2007年卒業）

『Buddha's Ear Illusion』

Best Illusion of The Year Contest 2023 トップ10

今井健人、茅野遥佳、小鷹研理（2007年卒業）

『XRAYHEAD』

Best Illusion of The Year Contest 2023 トップ10

大越円香（2023年卒業）

「Surface drawing」

anonymous art project competition 特別賞

河井健（博士前期課程1年）

『対話の不可能性 (wall_01)』

IAG AWARDS 2023 入選

監督：川添彩、音響デザイン：林暢彦（2023年卒業）

『とおぼえ』（英題：Howling）

IndieLisboa 2023 Best Fiction Award

志村翔太（博士前期課程1年）

『新しい世界』

六本木アートナイト2023 オープンコール・プロジェクト採択

森田明日香（博士前期課程1年）

『Lag』

第28回学生CGコンテスト アート部門 Campus Genius Award

BRONZE 滝戸ドリタ 評価員賞

阿部和樹（2022年卒業）

『Latent Space Explorer』

第28回学生CGコンテスト アート部門 Partner Award CCBT賞

第一回AIアートグランプリ 佳作入選

守下誠（2022年卒業）

『ARama!』

第28回学生CGコンテスト エンターテインメント部門 Campus Genius

Award BRONZE 柳太漢 評価員賞

Behicle2（河合将也（博士前期課程1年）、塩澄祥大（博士前期課程1年））

『AKS』

第28回学生CGコンテスト エンターテインメント部門 Partner Award ア

クセンチュア ソング賞

今谷真太郎（博士前期課程2年）

『レンゲ女王様』

月刊コミックフラッパー コミックフラッパー月例賞（2023年1月）

川田 祐太郎（博士前期課程2年）

『dægmael paramekairós』

やまなしメディア芸術アワード2022 Y-SILVER（優秀賞）

阿部和樹（2022年卒業）

『ParametriX』

やまなしメディア芸術アワード2022 入選

大久保雅基（2016年卒業）

『あなたが来たときに私はここにいた』

やまなしメディア芸術アワード2022 入選

加藤明洋（2018年卒業）

『WAN NYAN WARS』

やまなしメディア芸術アワード2022 入選

具志堅裕介（2017年卒業）

『WINDOW』

やまなしメディア芸術アワード2022 入選

鈴木英倫子（2007年卒業）

『女誠扇綺譚, 兵将官祠』

やまなしメディア芸術アワード2022 入選

チームSewing（竹澤風太（博士前期課程1年）、石塚隆（博士前期課程1年）、森田明日香（博士前期課程1年）、椋木新（社会人短期在学コース））

『Sewing Feelings』

やまなしメディア芸術アワード2022 入選

元橋洗佐、鈴木剛（2007年卒業）、小鷹研理（2007年卒業）

『キュービック体操』

やまなしメディア芸術アワード2022 入選

IAMAS イベント

- 毎年、修了研究発表会・プロジェクト研究発表会を開催し、成果の発表を行っています。
- 2024年度は「清流の国ぎふ」文化祭2024の一環として、DX時代のメディア表現展を開催しました。
- 隔年でOgaki Mini Maker Faireを開催しており、新しいアートやものづくりに関する発信を行っています。

IAMAS2025

第23期生修了研究発表会・プロジェクト研究発表会 Graduation and Project Research Exhibition

IAMAS2025では第23期生による修了研究発表会とプロジェクト研究発表会を行いました。本展では、「苦悩と誠実」をテーマに掲げました。今年は会場をソフピアジャパンセンタービルの上に絞り、会場構成から展示企画まで学生とともに新たな試みを行いました。また、前回行われなかったプロジェクト研究発表会の展示や、有志によるレセプションが再開されるなどコロナ以前の賑わいに戻りつつあります。トークイベントでは2024年4月にご逝去された坂根巖夫先生の追悼イベントが開催されました。

2025年2月21日（金） - 2024年2月24日（月・振休） 10:00-18:00（初日のみ13:00-）

ソフピアジャパンセンタービル

URL: <https://www.iamas.ac.jp/exhibit25/>

修了作品展示：15件 / 修了パネル展示：6件 / プロジェクト展示：6件

イベント：17件 / 来場者数：約670名

-Program

2024.2.21(金)

・IAMAS JUNCTION (1日目)

2023.2.22(土)

・クリティカルサイクリング-寒中ライド-

・プロジェクト研究：口頭発表

・なぜ私たちは自らの校舎をディストピアと呼ぶのか：

トーク

・ガムラン演奏

・ジェンダーじゃない話をしよう！

・IAMAS JUNCTION (2日目)

・NxPC.Live vol.72 俺楽と映像

2023.2.23(日)

・なぜ私たちは自らの校舎をディストピアと呼ぶのか：

サイクリングツアー

・プロジェクト研究：口頭発表

・IAMAS JUNCTION (3日目)

・ポスト言語学：「言葉とは何か」とは何か

・技術/手法の実験の積み重ねから生まれる視覚表

現を紐解く

・レセプション

2023.2.24(月・振休)

・IAMAS JUNCTION (4日目)

・IAMASのはじまり、

坂根巖夫先生を偲んで

・IAMASSONIC 2025 - pit in



IAMAS OPEN HOUSE 2025

開催概要：

メディア表現研究科の教員と在学生が一丸となり多様な研究成果を発表するイベントです。本イベントは学校紹介や進学相談の機会も担っています。科学的知性と芸術的感性の融合を目指した理論と応用を実践する研究科の取り組みを来場者と共有することを目的として、毎年開催しています。

本年度の来場者数は7/19(土) 157人、7/20(日) 154人の二日間で計311名となりました。IAMAS学校紹介に関する「進学説明会」「進学相談会」「学内ツアー」「KIOSK展示」のほか、個人有志の企画が29企画、プロジェクト関連の企画が11企画、合計で43企画と前年度よりも多くの企画が集まりました。今回は、展示やトークにおいてもプロジェクト主体やIAMASの博士後期課程（博士）の企画も増えてきたことにより、一層幅の広い表現領域が扱われた印象もあります。進学へ向けて熱心な来場者も多く見られました。

開催日時：2025年7月19日(土) -20日(日) 10:00 - 17:00

実施形態：対面開催 センタービル、WS24各会場

URL：<https://www.iamas.ac.jp/openhouse/>

開催企画一覧：

進学相談会（IAMAS OPEN HOUSE 2025実行委員会）

進学説明会（IAMAS OPEN HOUSE 2025実行委員会）

学内ツアー（IAMAS OPEN HOUSE 2025実行委員会）

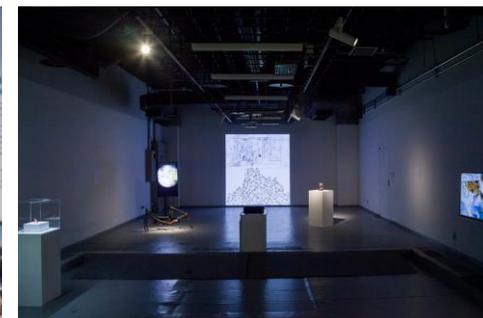
Kioskを使用したポスター展示（産業文化研究センター [RCIC]）

○プロジェクト関連企画

運動体設計＋クリティカル・サイクリング早朝盛夏ライド2025 / Extreme Biologiesプロジェクトの紹介 / 「同じクロレラを飲む」 / ASP25展 / 平瀬ミキ《冰山の一角》(2018) 再展示について / 身体覚醒 / Collaborative Design Research Projectの紹介 / 黒電話 / =IAMAS ≠ TIME / Critical cursor / 想起と記憶芸術

○個人有志企画

IAMASONIC2025 -don't think twice / ぼんやり眺める / みる目 / みせる目 / みられる目 / あの日の日記をつくる / Prosdod Grammelot / 私は海が見たい / 路上捨象習作 岐阜 / 交差点の中で私たちは何を見ているのか？ - 渋谷スクランブル交差点多感覚体験 - / 音と動きのスタディ / あわい | between us / つくるについて考える / Purest presence / 石橋友也「IAMAS ARTIST FILE #10 繭 / COCOON:技術から思考するエコロジー」再展示 / NxPC.Live vol.75 / re-Present / IAMASガムラン部演奏会 in OPEN HOUSE 2025 / Re: Transformation / 七宝焼における立体電鍍開発と応用 / Milk Skin / Musi[K] / Knock / 変身 / マルチカラースイッチングアニメーションのためのスタディ / Exuvia / 占リウム / 動画配信プラットフォーム RECHOLL の研究展示 / co.or.dinate / Picture-monogatari / 中の人を読む！ IAMAS Wikipedia / “博士後期課程おしゃべりサロン 登壇者：溝淵加奈枝、山口 達典、平塚弥生”



Ogaki Mini Maker Faire

Ogaki Mini Maker Faire 2024

Ogaki Mini Maker Faire について

「つくることから、はじめよう。もの / あそび / ふんか」をテーマに、ものづくりの新しい文化をつくるきっかけになることを目指して開催してきました。技術愛好家、クラフト作家、教育機関・企業等の技術者や開発者などが集い、それぞれの作品の展示や発表を行ったほか、来場者が家族で楽しめるワークショップやプレゼンテーションを実施しました。また、これまでのイベントを通して出てきた要望を踏まえ、VR空間を利用したプレイベントの開催や、出展者間の交流会を今回初めて開催いたしました。

運営主体

主催：Ogaki Mini Maker Faire 2024実行委員会
大垣商工会議所、ぎふIT・ものづくり協議会、一般社団法人岐阜県情報産業協会、一般社団法人岐阜県工業会、公益財団法人 ソフトピアジャパン、公益財団法人 岐阜県産業経済振興センター、岐阜県金属工業団地協同組合、伊藤忠アーバンコミュニティ・グループ、岐阜工業高等専門学校、岐阜県、大垣市、情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]
共催：株式会社 オライリー・ジャパン

イベント概要

会期：2024年11月23日（土・祝）12:00 - 17:00
2024年11月24日（日）10:00 - 16:00
会場：ソフトピアジャパンセンタービル（岐阜県大垣市加賀野4-1-7）

プレイベント：2024年11月16日（土）15時 - 17:00
会場：clusterので(メタバース)会場

総合ディレクター：小林茂教授

出展者：116組
（東北3組、関東34組、中部59組（岐阜県16組）、近畿19組・中国1組）

プレゼンテーション：12組
来場者数：約5000人



「清流の国ぎふ」文化祭2024 DX時代のメディア表現—新しい日常から芸術を思考する

“本展が目指すメディア表現は、数学的・科学的発想、技術や工学を応用した新たな創造性に基づき、人類が有史以来培ってきた温故知新の哲学を統合する分野の一端を占めています。特に、空間と時間の隔たりを超越することに着目し、「ここ・よそ」と「過去・現在・未来」を繋ぐ、「・」を意識したい。デジタルとアナログ、端末（オンライン）と対面（リアル）、サブスクリプション視聴と同時視聴、新しいと古い等々……。 「あいだ」を意識する想像力こそが、持続可能な社会を先導する理性であり、メディアであり、霊性だと仮定しよう。”

（松井茂（本展ディレクター、IAMAS教授）「新しい日常から芸術を思考する」より抜粋）

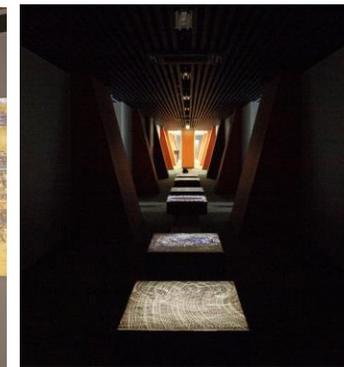
会期中の11月4日（月・祝）には畠中実（ICC主任学芸員）、尹志慧（ゆん じへ）（国立新美術館特定研究員）、松井茂（IAMAS教授）によるトークが行われ、それを挟む形で谷口かな（音楽家）による三輪眞弘作曲《呪い（まじない） ツイター》の再演が行われた。

開催日：2024年11月1日から7日

会場：情報科学芸術大学院大学
ワークショップ24 1階 IAMAS附属図書館／7階ソピア・キャン
及び オンライン

出展作家（50音）：青柳菜摘＋佐藤朋子、Archival Archotyping、赤松正行、池田町有線放送電話プロジェクト、クワクボリョウタ、谷口かな、平瀬ミキ、藤幡正樹、誉田千尋、前林明次、ミスタニタミ、三輪眞弘、毛利悠子、安喜万佐子＋前田真二郎、山下麻衣＋小林直人 ほか

会場構成：富田太基
テクニカル：土方大
Webデザイン：西田騎夕
ディレクター：松井茂
主催：情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]
協力：久松真一記念館、OKB総研



IAMAS ARTIST FILE #10

繭 / COCOON 技術から思考するエコロジー

2025年1月10日から3月9日まで岐阜県美術館で
IAMAS ARTIST FILE #10 繭 / COCOON 技術から思考するエコロジーを開催しました。
ジャン＝ルイ・ボワシエ、クワクポリョウタ、西脇直毅、florian gadenne + miki okubo、石橋友也が出展しました。

会場：岐阜県美術館 展示室2（岐阜県岐阜市宇佐4丁目1-22）

会期：2025年1月10日 - 2025年3月9日 10:00 ~ 18:00

（展示室の入場は閉館の30分前まで）

※夜間開館日：2025年1月17日（金）、2月21日（金）は20:00まで開館（入場は19:30まで）

主催：岐阜県美術館、情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]

企画：

岐阜県美術館（鳥羽都子）

情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]（大久保美紀）

関連プログラム

作家によるギャラリートーク

1月11日 |土| 14:00 - 15:30

岐阜県美術館 展示室2

在廊作家：ジャン＝ルイ・ボワシエ、クワクポリョウタ、フロリアン・ガデン（florian gadenne+miki okubo）、石橋友也

担当学芸員によるナイトギャラリートーク

1月17日 |金| 18:30 - 19:00

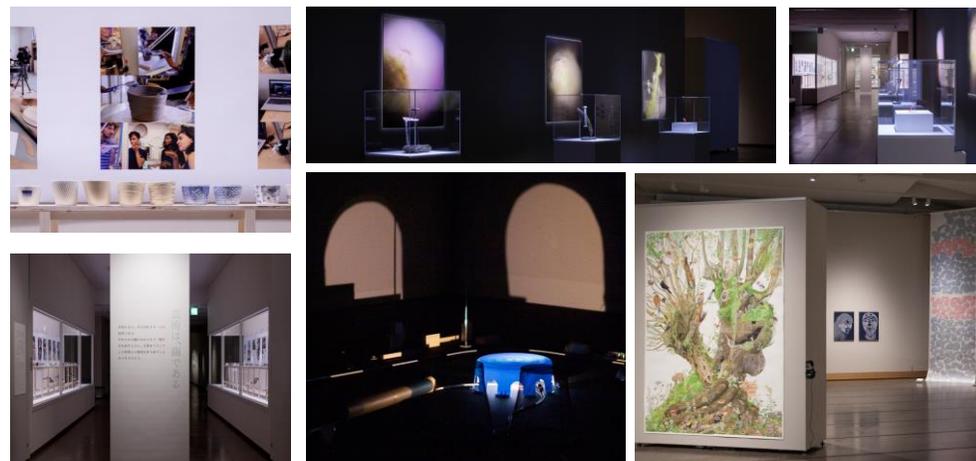
ナンヤローネアートツアー

1月19日 |日| 14:00 - 15:30

アーティストトーク

3月8日 |土| 14:00 - 15:30

出演作家：クワクポリョウタ、大久保美紀（florian gadenne+miki okubo）



IAMAS アーティスト/リサーチャー・イン・レジデンス事業

概要

情報科学芸術大学院大学（以下 IAMAS）では、2025年度よりアーティスト／リサーチャー・イン・レジデンス事業を開始します。初年度となる今回は、2025年8月から11月までの3か月間、映像作家・キュレーターのジダーノワ・アリーナさんが本学に滞在することが決定しました。

アーティストは滞在期間中にIAMASに滞在して制作・研究を行い、本学学生と交流するとともに、県民や学生に開かれた形でワークショップや制作作品の展示を行います。

詳細WEB

<https://www.iamas.ac.jp/news/air2025/>



ジダーノワ・アリーナさん



キックオフ企画：Zhdanova Alina上映会での様子



作家プロフィール

ジダーノワ アリーナ / Zhdanova Alina

モスクワ（ロシア）に生まれ北海道で育つ。現在は京都を拠点に、映像作家・キュレーターとして京都で活動。博士（美術）。京都精華大学メディア表現学部教員。

人の記憶や人格、その背景にある社会背景に興味があり、個人や他者の語りを通じて様々な国や街でリサーチを行っている。忘却と想起、記憶の再構築などをテーマに、人が話す日常や記憶をもとに、自作の架空言語やアニメーションをつかって鑑賞者の記憶と対峙するような作品を作る。

主な展覧会として「Fictitious」（Nproject、2025）
「第1回MIMOCA EYE」（丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、2022）など、

主な受賞として「京都新鋭選抜展」最優秀賞（京都文化博物館、2021）、「CAF賞2015」最優秀賞（3331 Arts Chiyoda、2015）などがある。

地域貢献活動

・地域貢献活動の一環として、企業を対象とした岐阜イノベーション工房を行っています。



岐阜イノベーション工房

岐阜イノベーション工房2024

岐阜イノベーション工房は、参加者が、イノベーション創出に有効であるとされる手法を主催者から学び、参加者の所属組織などにおいて実践し、実践からの学びを共有することを通じて、イノベーション活動に積極的に取り組む風土を岐阜県内に醸成することを目的として情報科学芸術大学院大学が実施しているプログラムです。

2018年からの5年間で25社が参加し、本事業への参加をきっかけにイノベーションがいくつも生まれました。2024年の岐阜イノベーション工房成果報告会では小林茂教授の講演と参加企業のディスカッションを行いました。

©2025年2月21日(金)13:30 - 15:30
Co-Labo SOPIA (コラボ・ソピア) (岐阜県大垣市今宿6丁目52 ワークショップ24 2F)

- 講演
「ポスト現象学：人間とテクノロジーの関係性を捉え直し、イノベーションの機会を見つけるためのレンズ」
情報科学芸術大学院大学 教授 小林茂
- プログラム参加企業のその後（ディスカッション）
登壇者 太平洋工業株式会社 「Ωプロジェクト」プロジェクトリーダー 金森 和宏さん
株式会社OKB総研 戦略事業部長 FabCafe Nagoyaマネジャー 長瀬一也さん
モデレーター 情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] 教授 小林茂

プロダクト・イノベーション

プロダクト・イノベーションとは、新しいプロダクト（製品・サービス）であって、その企業の以前のプロダクトとは大きく異なり、かつ市場に導入されているものを意味します。以下の企業の取り組みが報告されました。

株式会社Clap：ご褒美おつまみ定期便nohaco

おつまみ専門店が監修したAIが、質問の答えから分析したあなた好みの本格おつまみを毎月お届けする定期便サービスです。送られてきたおつまみを評価すると、どんどんあなた好みのセレクトになっていきます。（2019年度参加者・2022年1月リリース）

カンダまちおこし株式会社：CoLoRs

企業版ふるさと納税制度を活用して企業と地方の関係性を構築することにより、企業と地方、双方にとっての持続的な発展と課題解決を支援するサービスです。自治体職員対象の勉強会などにより、従来は難しかったマッチングを効果的に促進します。（2021年度参加者・2023年2月リリース）

岐阜イノベーション工房2025 開催プログラム

オンデマンドプログラム

IoT講座：IoTデバイスを用いたデータ活用の入門
UIプロトタイプ制作講座：Webサービス（Figma）を利用したアプリ画面制作

短期集中型演習プログラム

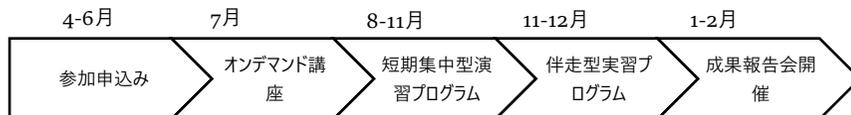
講師の指導のもと、ステップごとに組まれたプログラムをチーム毎に進めていきます。

伴走型実習プログラム

演習プログラムで学んだ方法論をそれぞれの組織等に持ち帰り、自分たちで設定した実際の課題に取り組むことにより、短期集中型演習プログラムでの体験を経験とすることを目的とします。

成果報告会 期間中の成果を報告する公開の成果報告会を開催します。

2025スケジュール



- 2025年度のRCIC連携活動紹介

岐阜県立岐阜高校との連携実績

「高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）」にRCICが企画協力する形で「やながせを聴く～フィールドレコーディングワークショップ～」を開催

卒業生で音響作家のウエヤマトモコさんを迎え、岐阜市柳ヶ瀬エリアを散策し、参加者がフィールドレコーディングを通じて身近な場所や人々を新たな視点で再認識するワークショップを実施しました。収録した音声を共有し、共に体感することで、参加者同士や場所との新たな関係を築くことを目指しました。収録した音声は、音声ARスマートフォンアプリ（AR Audio Guide）を活用し、マップ上で録音場所に対応したサウンドとして再生できるようにし、空間を移動しながら音を聴取することで、より深くその場を感じる体験について考える機会となりました。

「やながせを聴く～フィールドレコーディングワークショップ～」

日程：2024年7月10日(木)～11日(金)
場所：岐阜市中央青少年会館

成果：

参加者は、普段気づかない「音」に焦点を当て、専門機材を使ったレコーディング技術を学びながら柳ヶ瀬の音風景を録音。さらに、AR（拡張現実）技術を活用して現実の空間に音のマッピングを行い、デジタルアーカイブとして保存・表現する方法を体験しました。参加した生徒は「普段通り過ぎるだけの場所も、立ち止まって聴くと新しい発見がある」「この技術を応用することで様々な可能性が広がる」といった意見が交わされ、「街の活気とは何か」を考えるきっかけとなり、デジタル技術を活用した地域振興の新たな可能性を考える機会を提供することができました。

令和7年度 デジタル人材育成PG

やながせを聴く ～フィールドレコーディングワークショップ～

学校を飛び出し、街へ出よう！ 街のさまざまな音を拾い
集め、デジタルを駆使して音で街を表現しよう！！

日時 7月10日(木)
13:20 集合 岐阜市中央青少年会館
13:30～14:00 説明
14:00～15:30 フィールドワーク(柳ヶ瀬周辺)
15:30～17:00 音のマップ作成、解散

7月11日(金)
13:20 集合 岐阜市中央青少年会館
13:30～15:30 アーカイブサウンド体験
・ディスカッション
16:00 プログラムのまとめ、解散

講師 ウエヤマ トモコ さん
音響作家
株式会社assy(代表取締役)
愛知県立芸術大学メディア映像専攻スタジオ職員
名古屋造形大学 情報表現領域 非常勤講師
名古屋芸術大学 デザイン領域 非常勤講師

企画 情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]
産業文化研究センター [RCIC]

定員 10名程度(1～3年希望者)
*フィールドワーク参加の場、参加者にはお弁当をご用意いたします。100円程度、現金でのご用意をお願いいたします。




出版 広報

- IAMASの研究や各種の活動について認知や関心を高めるための広報活動を行っています。
- 教員による研究や活動を掲載する「紀要」や、プロジェクト成果を纏めた冊子など、IAMASの研究活動の記録も行います。

情報科学芸術大学院大学紀要

Journal of Institute of Advanced Media Arts and Sciences

第16巻 2024年

[特集1]

- 小林昌廣教授退任記念特集 「私のグレキ書」小林昌廣教授

[特集2]

- 清流の国ぎふ文化祭2024
DX時代のメディア表現-新しい日常から芸術を思考する
「ソトピアジャパン（大垣）の原点」松井茂教授
展覧会 2024年11月1日（金）から7日（木）7日間

[特集3]

- IAMAS ARTIST FILE # 10繭／COCOON 技術から思考するエコロジー
出展作家 ジャン＝ルイ・ボワシエ、クワクポリョウタ、西脇直毅、lorian gadenne + miki okubo、石橋友也

書籍・雑誌掲載 ※2025.9現在

小林茂教授

書籍『テクノロジーって何だろう？〈未完了相〉で出会い直すための手引き』(小林茂 著/ピー・エヌ・エヌ新社/2025.9)「テクノロジー」というものの捉え方を更新する、



松井茂教授

雑誌「現代思想 2024年11月臨時増刊号」(青土社/2024.10) 松井茂教授が「ドアの向こうで、迷走がづく。」-安部公房と磯崎新の「砂漠の思想」序説」を執筆



卒業生



雑誌「Forbes JAPAN2025年6月号」(リクタイズ株式会社/2025.4)「多彩な新・起業家たち100人」にフォーカスした特集「NEXT100 100通りの「世界を救う希望」」に卒業生の明貫紘子氏が選ばれ、掲載された。

書籍『なぜ社会人大学院で学ぶのかII』(山越誠司ほか著/AmazingAdventure/2025.7) 卒業生の浅田仁志氏が、第17章「学び直しとキャリアの多様性」を執筆している。浅田氏は同シリーズIの「第6章の「キャリアと感性を豊かに磨く社会人短期大学院」も執筆されている。

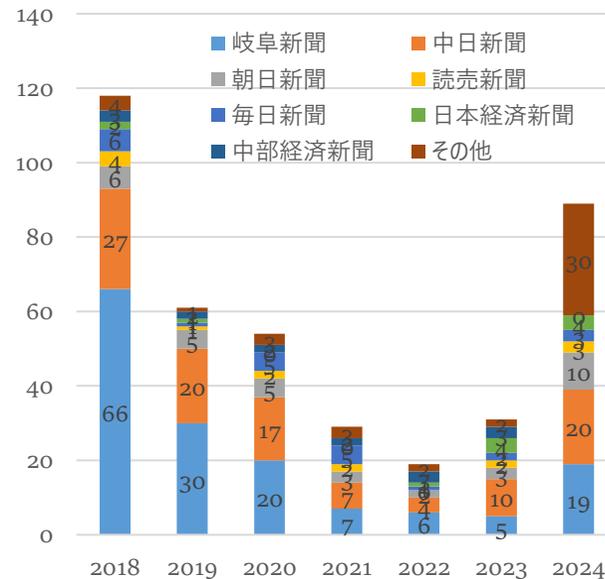


書籍『4歳から楽しめる 即興工作大図鑑』(野呂祐人 著/KADOKAWA/2025.5) 卒業生の野呂祐人氏による身近な素材を掛け合わせた「即興工作」の書籍。



新聞掲載件数

2025.09現在

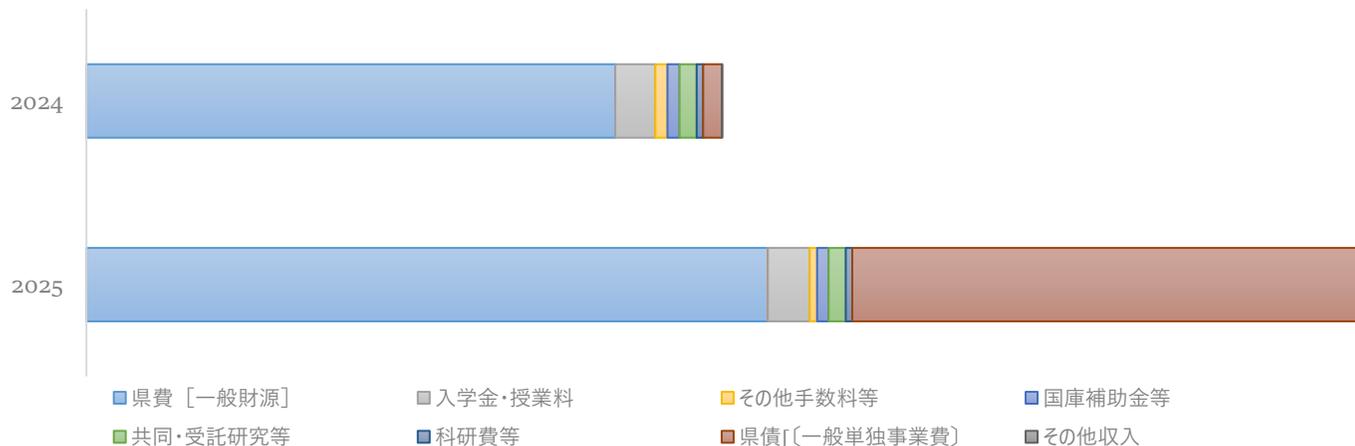


運 営

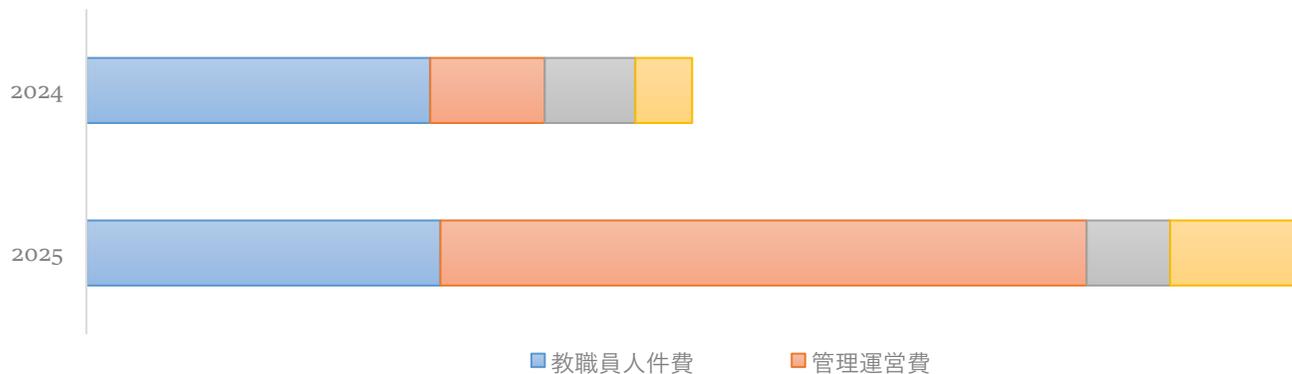
- IAMASの運営に関する予算は以下のとおりとなっており、歳入の約8割は岐阜県予算から措置されています。

(千円)

- 歳入の部		2025	2024
県費〔一般財源〕		589,143	457,208
入学金・授業料		36,261	34,654
その他手数料等		6,284	10,476
国庫補助金等		10,000	10,452
共同・受託研究等		14,800	14,800
科研費等		5,600	5,600
その他収入		306	286
県債〔一般単独事業費〕		440,400	16,200
合 計		1,102,794	549,676



- 歳出の部		2025	2024
教職員人件費		321,271	312,001
管理運営費		586,455	103,959
教育研究費		75,722	82,233
施設整備費		119,346	51,483
合計		1,102,794	549,676



[主な用途]

管理運営費：校舎維持、非常勤講師、広報、入学試験
 教育研究費：PJ研究、教員研究、特別給付生
 施設整備費：校内システム設備整備、図書館運営

(単位:千円)

一 授業料、入学料その他の費用

- 入学前に必要な費用

入学金
 県内の者:226,000円
 県外の者:338,000円

- 在学時に必要な費用

授業料
 年額 535,800円
 前期 04月30日までに納付
 後期 10月31日までに納付

- 入寮者のみ

寮費 22,800円/月
 共益費 35,000円/年 (前納)

- 授業料減免に関する情報

学業に精励し、人物健全な者で、次の各号のいずれかに該当する場合、授業料の減免または 納入期限の延長が認められる場合があります。

1. 生活保護法第6条第1項に規定する被保護者の世帯に属する者
2. 長期疾病、生業の不振又は失業のため、その生計が著しく不良となり、前号の被保護者に準ずる程度に困窮していると認められる世帯に属する者
3. 天災その他の災害により著しく損害を受け、学資の支弁が困難な世帯に属する者
4. 知事が別に定める基準により情報科学芸術大学院大学特別給費生として認めた者
5. その他知事が特に減免等の必要があると認めた者

一 情報科学芸術大学院大学に対する大学評価（認証評価）結果

情報科学芸術大学院大学は、公益財団法人大学基準協会による2021年度大学評価（認証評価）の結果、同協会の定める大学基準に適合していると認定されました。

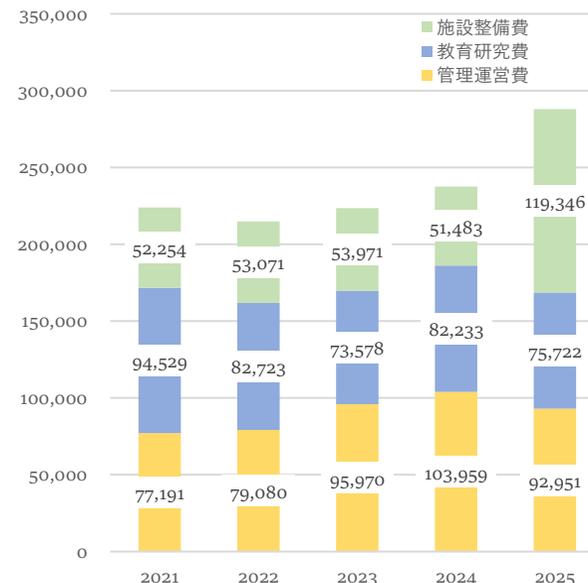
認定期間:2022年4月1日 - 2029年3月31日

一 中期目標及び中期計画

情報科学芸術大学院大学中期目標及び中期計画を策定し、IAMAS WEBに掲載しています。(独立行政法人化されていない大学の策定は任意)

計画期間:2024年4月1日 - 2030年3月31日

一 運営事業費(当初予算額)の推移(人件費を除く)



※2025年度は、施設整備費に校内新ネットワーク保守運用業務委託費を含む



学 生 支 援

- IAMASの学生は、多様な専門分野、様々な地域から入学があるため、進路についても多様な要望に対応する形で支援しています。
- 学生の皆さんが、研究や制作活動に打ち込めるよう生活についての支援も行っています。

- キャリアセミナー

学生が進路を検討するために必要な支援を行っています。

- 第1回キャリアセミナー 2025年4月10日(木) 午前 * 対面開催
テーマ：OB/OGの事例紹介
- 第2回キャリアセミナー 2025年4月30日(水) 13:20~16:25 * オンライン開催
フリーランスの働き方の紹介
フリーランスとして働くときに気を付けるべき事項、クリエイターとしての契約上の注意点など、わかりやすくお話いただいた。
講師：山内真理氏、倉崎伸一朗氏
- 第3回キャリアセミナー 2025年9月24日(水) 13:20 - 16:25 * 対面・オンライン開催
在学生が進路を考える際に参考となるよう、身近な本学修了生からの声を聴く機会を提供しています。

- キャリアカウンセリング

学生一人一人に対し、担当教員が進路について面談を行っています。

- 国際交流員

海外出身の教員や交換留学生のサポート、IAMAS研究成果の海外発信などのため、自治体国際化協会（クレア）「語学指導等を行う外国青年招致事業（JETプログラム）」を活用し、国際交流員（Coordinator for International Relations [CIR]）を受け入れています。

学生の研究活動にも大きな支援となります。

- 交換留学制度

IAMASでは、海外の教育機関との学生交流事業を実施しています。

このプログラムは、学生に海外で豊かな経験を積んでもらうもので、毎年2名が提携校に1~3か月留学するとともに、提携校の学生がIAMASに滞在し、互いに交流を深めます。

現在の提携校：リンツ美術工芸大学（オーストリア）

* 2024年度：M2学生2名留学、リンツ工芸大学学生1名を受入。

- 学生寮 [RIST]

学生寮 [RIST] は、IAMASから約1.3Kmの住宅街に位置し、ユニットバス、ベッド、電気調理器具など快適さと機能性を備えた生活空間となっています。また、学生が利用しやすい寮費としています。（オール電化のためガス調理器具・暖房は使用できません。）

大垣市藤江町1丁目1-7

全40室（洋間）



- 仮眠室

夜間の帰宅困難時はセンタービル2階に、仮眠を取ることができる和室があります。研究活動で疲れた身体を癒します。

- 保健室

平日の午前9時~午後5時15分の間はセンタービル3階の保健室に常備薬を置き、怪我の応急処置に看護師が対応します。健康に関すること、毎日の暮らしに関すること、精神面のことなどの相談に対応するほか、気分の優れないときには休養室で横になって休むことができる場所となっています。

- カウンセリングルーム

月に2回（火曜日または金曜日:11時40分~16時30分）、センタービル3階保健室2では、随時カウンセリングを行っています。臨床心理士の2名のカウンセラーが交代で対応します。

入 試

- 入学生の獲得に向けて、毎年、進学相談会を実施するとともに、夏はオープンハウスを開催し、秋には岐阜高専対象進学説明会に教員を派遣しています。
- また、入試に関する相談や学校見学は随時受け付けています。
- 県外での進学イベント、進学説明会、相談会とオンラインでの進学説明会を行い、入学生の獲得に取り組んでいます。

IAMAS OPEN_HOUSE2025

2025年7月19日(土)-20日(日)の2日間にわたり、「Iamas open_house: 2025」を開催しました。昨年度に続き、IAMASキャンパスで開催するもので、間近で教員・学生の研究や作品、パフォーマンスを見ていただくとともに、進学相談会、進学説明会、学内ツアー等を通じて、教員や在學生との交流を図る機会となりました。

進学説明会

本学教育課程の主な流れと研究活動について紹介し、入試日程や入試方法、出願手続きなどについて説明しています。

日 時：2025年7月19日(土)～20日(日) 12:30～13:30
場 所：ワークショップ2 4 5 F R-cafe (対面のみ)

進学相談会

本学への進学を考えている方のために、本学教員が、受験、制作・研究の進め方、学校生活などの相談を受けています。

日 時：2025年7月19日(土)～20日(日) 10:00-17:00
場 所：ワークショップ2 4 5 F (対面のみ)
参加人数：7月19日(土)14名 7月20日(日)16名

岐阜高専対象進学説明会

岐阜工業高等専門学校専攻科生に対し、本学教育課程の主な流れと研究活動について紹介し、特別推薦入試日程や入試方法、出願手続きなどについて説明しています。

日 時：2024年11月20日(水) 15:00～17:00 (2025年開催予定(日時未定))
場 所：岐阜工業高等専門学校 多目的ホール (対面のみ)



進学説明会・相談会

オンラインでの進学説明会

【第1回】

日 時：2025年4月25日(金)18:30-20:00
参加人数：28名

【第2回】

日 時：2025年7月11日(金)18:30-20:00
参加人数：20名

東京会場

日 時：2025年6月7日(土)14:00-17:00
場 所：ふれあい貸し会議室 八重洲No14
参加人数：20名

京都会場

日 時：2025年6月14日(土)14:00-17:00
場 所：京都FRAME IN BOX
参加人数：10名

